

生もろか

SHINGON

[特集] こうみょうしんごん 光明真言のくどく 功德

Vol.
85

真言宗智山派

目次

- 今日の法語 稲田祥英……………2
- 智山寺院探訪 瀧谷不動明王寺……………3
- 特集 光明真言の功德……………6
- お大師さまとご信仰 田村宗英……………10
- いただきますの心 音羽和紀……………11
- 図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏③」
え・悟東あすか……………12
- ゆーけいの写仏をするよろこび
牧 有恵……………14
- 日本の四季を切り取る十七文字
星野高士……………15
- 総本山の便りをお知らせします ……16
- 私の夫はお坊さん 大塚哲子……………18
- ごくらくらくご 三遊亭竜楽……………19
- 仏さまの心を詠う 新堀歎乃……………20
- 読者アンケートから・おしらせ・編集後記……………22
- 真言宗智山派出版刊行物のご案内……………23
- 曼荼羅の仏たち 小峰彌彦……………24
- 刮目！ 仏教体験記 内藤理恵子……………26
- 花に聞く 仏に聞く 佐々木隆元……………28
- 仏教と妖怪 今井秀和……………29
- やきものをたのしむ 柳田栄萬……………30
- この書の弘法大師 飯島太千雄……………31

- | | |
|---------------|---------|
| ■ 仏教について | ■ 仏教と文化 |
| ■ わたしたちの生活と仏教 | ■ お知らせ |

表紙写真 「森を舞うヒメボタルの輝き」

7月下旬、広島県の中国山地で光を放つ“ヒメボタル”の群れ。日本で良く知られるホタルは、水辺で暮らし黄緑色に光るゲンジやヘイケで、幼虫は川にすむ巻貝を食べる。しかし、このヒメボタルは一生を森の中で過ごす。幼虫はカタツムリを食べ、オレンジ色っぽい暖かな黄色でチカチカと命の火を輝かせる。

目次写真 「涼やかな流れの鍋ヶ滝」

阿蘇山に近い熊本県の山間部にある鍋ヶ滝。カルデラ噴火の名残である、阿蘇外輪山の硬い岩盤の川床と、削られやすい火山灰の軟らかい地層の重なりによって、滝の裏側を廻ることができる不思議な地形が生まれた。地球も生きていくということを実感できる場所に、カーテンのような水が涼しげに流れる。

撮影・解説／宮武健仁



厳しい冬の時代は必要か。そんなこと考えるまでもなく、辛い思いなんてしなずに越したことはないと思います。しかし、辛い冬を経験して幸せを得た人と、そういった経験なしにそれを得た人とは、何となく前者の幸せの方がひとしおな気がします。ただそれも幸から見た苦、春から見た冬であり、やつぱり、あまりに寒ければ逃れるべきだし、逃れてもいいと思います。

というわけで弘法大師より『秘蔵宝鑰』のことばです。「冬枯れの木にも必ず春が訪れ花をさかせる」。なかなか前途洋々とはいきませんが、これまでの人生に春をくれた全ての人に感謝。

今日の法語 「迎春則榮華」春に遇えば則ち榮え花さく

稲田祥英（群馬県太田市・長慶寺）



初不動のご縁日だけあって、境内は多くの参詣者で賑わっていた。



智山寺院探訪

近畿三十六不動尊霊場第三十二番札所

大阪府富田林市

瀧谷不動明王寺

近鉄「瀧谷不動駅」を下
車すると、大変な人ばかり
であった。駅から一キロほ
どの参道の両脇にはさまざ
まな露店が軒を連ね、その
賑わいでなかなか前に進め
ないほどだ。

「やはり、今日来ること
ができて良かった……」

本日は一月二十八日、初
不動のご縁日である。瀧谷
不動尊が特に賑わう一日で
あるから、大変にご多忙の
ことは承知している。だが、

私はどうしても、と本
日の取材をお願いしたので
ある。瀧谷不動明王寺とい
えば、大阪の南東部、富田
林にある古刹であり、日本
本三不動の一つに数えら
れる近畿一円の不動信仰の
中心地である。そう、私は
山中に佇むこの信仰の霊山
が、多くの人で賑わうところ
を、その信仰の息遣いを、
どうしても肌で感じてみた
かったのだ。

境内に到着すると、まず

は、初不動大祭のため厳修される「大般若経
転読付大護摩供法要」に参列させていた
く。ご信徒さんで埋め尽くされた本堂、僧侶
たちは次々と『大般若波羅蜜多經』を大きな
声で転読し、お護摩の炎は高く上がる。迫力
がないわけがない。しかし同時に、堂内の雰
囲気は、どこか不思議としつとりと落ち着い
ていたのが印象的だった。ふと視線をあげる
と、ご本尊と視線がぶつかる。これが瀧谷の
お不動さまか……開創以来、千二百年近くの
歴史の中で、人々の信仰の対象であり続けて
きたこのお不動さまの視線の先には何があっ
たのか、ご覧になってきたのは一体どのよう
な風景だったのか。

瀧谷不動明王寺は、弘仁十二年（八二二）、
この地を訪れた弘法大師が不動明王とともに
脇侍の矜羯羅童子と制吒迦童子の両童子を一
刀三礼で謹刻したのが始まりとされている。
当初は、現在地より一キロほど南の山の中腹
にあつて、多くの堂塔伽藍を誇り、また平安
時代には大いに興隆するも、南北朝時代に
至つて二度の大きな戦禍に遭うなど困難な時
代を迎えることとなる。その二度目の戦災で
伽藍が烏有に帰した後、現在の場所に遷され
ると、江戸期に入り平和の訪れとともに徐々
に興隆復興をとげ、広く信仰を集めながら、
現在に至るまで人々の営み、祈りの全てを見



この日大般若経転読付大護摩供法要が盛大に厳修されていた。僧侶たちの転読する大きな声が堂内に響きわたる。

守ってこられたということである。

大護摩供法要の後は、境内を散策させていただく。

まずは、瀧不動堂へ参拝する。その傍らには、お滝行場がある。瀧谷の地名の由来ともなっているこの瀧には、かねてより、眼病平癒を祈願する多くの人々が集い、行に励んできた。瀧谷のお不動さまは、眼病平癒の霊像として古より信仰を集めてきたのである。

眼病平癒にご利益があるとされるのは、由来となる一つの伝説があるためだ。

先に、南北朝時代に二度の戦禍に遭ったことは触れたが、一度目の戦災で諸堂が灰燼に帰した際、ご本尊と両童子はお滝の下に遷されて難を逃れた。その時、盲目の老僧が現れて、ご本尊の霊験を人々に説いて、礼拝していたが、まもなくその老僧は晴眼（眼



写真では少し見難いが、中央奥に見えるのがお滝行場。右手に見えるのが瀧不動堂である。

が見えるよう）になり、姿を消したという。

——これは、老僧の姿になって現れたお大師さまが、ご本尊が霊験あらたかであることを私たちにお示しくださったという縁起である。

爾来、瀧谷の不動尊は、眼病平癒の霊像として信仰されるようになったというのだ。寺に伝わる多くの霊験譚にも、眼病平癒のご利益が篤かったという話に事欠かないことから見ても、実際に霊験あらたかなのは間違いないだろう。

続いて、境内の諸堂を順に巡っていく。観音堂、多宝塔、西国三十三所お砂踏み霊場、三宝荒神堂……バリエーションに富んでいる

ので、巡拝するのが何だか楽しくなってくる。同行してくれたカメラマンの村中さんも「何だか、テーマパークみたいですね」と私に笑顔で話しかけてきた。こうした諸堂の多くは現住職純光師、先代實善師の代で整備されたものであるが、山容整備自体は、明治以来の歴代先師たちの努力の結晶でもあった。というのも、これは、廃仏毀釈に始まる明治



写真は、西国三十三所のミニ霊場巡りの惣拝所。ブロンズの聖観音をお祀りしている。石段を登ると、西国三十三所のお砂踏み霊場や三宝荒神堂がある。

より、大正、昭和、そして現代までのめまぐるしい時代の変化にあつて、檀家の一軒もない、この完全なる祈禱寺院が生き残るために必死で行ってきた、寺の組織や行事の改革と近代化の一環だったのだ。

しかし、瀧谷不動には、受け継がれて変わらない伝統がある。それは、いかなる時代にあつても、ひたすらご本尊とともに霊徳顕揚と万民救済のために精進する「精神」である。瀧谷不動では、現住職を含めて歴代住職が、過酷を極める八千枚護摩供を何度も修行され、そしてまた、毎日六座のお護摩祈禱が執り行われている。

ご住職はかつて師僧にこういわれたそうだ。「ありがたい住職であると評されるには、本人の修行次第で一代でも可能であるが、ご本尊さまがありがたいといつてもらうためには、一代では成らず、代々の住職が祈り継ぐことが不可欠である。幸いありがたいご本尊さまがおいでになるのだから命がけでお守りせよ——」と。

この寺院が千二百年近く、人々の信仰を集めて存在し続けてきたのは、ご本尊の霊験はもちろん、それに加えて、ご本尊に真剣にお仕えして守ってきた歴代住職がいたからこそなのだろう。



う。

目の前の「伝統」に圧倒されて熱い感動を胸に私は帰路についた。

(智山教化センター所員／松平實心 撮影／村中修)

ご住職の荒谷純光師。柔和な表情で先代からいただいたお言葉について懐かしそうに語ってくださいました。「住職の役割はお護摩における松明（つけ松）のようなもの。壇木に火が燃え広がれば役割は終わる」。……これもまた、思い出に残る先代からの一言とのこと。



〔 特集 〕

光明真言の 功德

光明真言は梵字と呼ばれるインドの文字であらわれます。その功德はとても大きく、お唱えることで、さまざまな罪を除くとわれています。真言宗智山派では「おん あばきや べいろしゃのう まかばだら まに はんどま じんばら はらはりたや うん」とお唱えます。



梵字揮毫
児玉義隆

たいしやうだいがくせんになこう し ち さんてんぼういん ひ じやうきんこう し さ さ き だいじや
大正大学専任講師・智山伝法院非常勤講師 佐々木 大樹

智山勤行式

智山勤行式

みなさんが、日々のお勤めや法事・法要などの際にお唱えするために作られた經典が「智山勤行式」です。その中でも光明真言をお唱えします。

真言宗は、その名が示すように「真言」を大切にする宗派です。真言とは、仏教の祖国インドからもたらされた神聖な言葉であり、インドの聖なる文字（梵字）で記され、原音（梵音）に忠実に発声されます。真言宗の僧侶は、師（阿闍梨）からたくさんさんの真言を伝授され、その真言をくり返しお唱えする修行をして、一人前の僧侶になってゆきます。

インドから伝えられた真言の数は膨大ですが、その中でも、とりわけ大切にされてきたのが「光明真言」です。真言宗で行われる通夜・葬儀、法事などでは、故人やご先祖さまの追善や廻向のために、必ず光明真言が唱えられます。一般の方でも、『智山勤行式』に

載せられていることから、光明真言を実際にお唱えされた方も多いことでしょう。

ここでは、光明真言にこめられた意味や功德を中心に平易に解説したいと思います。

◎光明真言の意味

多くの真言宗寺院の本堂には、胎藏界曼荼羅と金剛界曼荼羅が祀られています。その曼荼羅には、びっしりと細かく仏さまが描かれています。その一々の仏さまにそれぞれ真言が定められています。

胎藏界曼荼羅、金剛界曼荼羅では共通して、中央に大日如来が描かれており、真言宗の根本のご本尊さまとされています。その徳の偉大さから、太陽に喩えられ、「大日」の名があります。太陽があらゆる闇を除き万物を育むように、大日如来もまた私たちの心の迷いを払い、それぞれの善い部分を伸ばしてくれるのです。

この大日如来の徳、特に智慧



胎藏界阿彌陀如来



胎藏界中台八葉院

胎藏界大日如来

尊像写真／彩色 胎藏曼荼羅 大宝輪圖 染川英輔 作

の働きを讃える真言こそが、光明真言です。

光明真言の中の「べいろしゃのう」とは、伝統的に大日如來の梵名ヴァイローチャナ（毘盧遮那）と音写）と考えられています。真言の「じんばら」とは、光り輝くの意味であり、光明真言の名の由来となっています。

この光明とは、迷いや苦しみを取り払い、私たちの心を浄化する大日如來の智慧の働きを表現したものです。

大日如來は、他の仏さまと異なり、さまざまな宝飾を身に付け、宝冠を頂く王者の姿をしています。この姿が象徴するように、大日如來は、あらゆる仏さまの上に君臨するものであり、曼荼羅上の総ての仏さまの智慧と慈悲を一身に集めたものといえます。ですから、大日如來の智慧を象徴する光明真言をお唱えすれば、大日如來を通じて、曼荼羅上のすべての仏さまを供養することが可能であり、それぞれの仏さまがもつ利益を受けることができます。このような理由から、光明真言は「諸仏菩薩の総呪（あらゆる仏さまを供養する真言）」と呼ばれ、ご本尊さまの種類に関係なく、さまざまな場面でお唱えされてきたのです。

◎阿弥陀如来と光明真言

なお「諸仏菩薩の総呪」である光明真言ですが、日本では平安時代の末期以降、阿弥陀

如來の真言としての面が強調されてきました。阿弥陀如來は、西方・極樂浄土の仏さまで、「南無阿弥陀仏」とお唱えすれば、死後、極樂に往生できるとして大変な人気を集めました。浄土宗・浄土真宗は、阿弥陀如來をご本尊さまとしています。

この阿弥陀如來も曼荼羅に含まれており、大日如來から見て西方（胎藏界では下、金剛界では上）に描かれています。光明真言をお唱えすれば、大日如來を通じて、阿弥陀如來とご縁を結び、死後、その導きによって極樂に往生することも可能なのです。

真言の「はらはりたや」とは、迷いの世界を仏の世界（浄土）に転ずる力を表しています。万が一、地獄に堕ちたとしても、光明真言の功德によって地獄を破り、仏さまの国（浄土）に往くことができるのです。

◎光明真言の功德

光明真言が説かれる『不空罽索神變真言經』というお経には、光明真言をお唱えし、またその音を耳にするだけでさまざまな罪を除くと説かれています。

仏教で説く罪のうち、私たちに身近なものとして、十惡があります。十惡とは、人が犯す十の惡事のことです。ちようど、私たちが行うべき善い行動である、十善戒をひつ

くり返したものです。

十惡

- ① 殺生（むやみに生きものを殺す）
- ② 偷盜（他人のものを盗む）
- ③ 邪淫（姪らな交遊をする）
- ④ 妄語（ウソをつき相手をだます）
- ⑤ 綺語（無意味な言葉を使う）
- ⑥ 惡口（粗暴な言葉を使う）
- ⑦ 兩舌（人の仲をひき裂く言葉を使う）
- ⑧ 貪欲（むさぼりの心をもつ）
- ⑨ 瞋恚（怒り怨む心をもつ）
- ⑩ 愚癡（道理にそむく心をもつ）

仏教では、善を行えば安樂が得られ、逆に欲望にまかせ惡を行えばさまざまな苦しみを受ける」と説きます。その苦しみの際たるものが地獄です。光明真言を日々お唱えすればさまざまな罪を除き、私たちの身と心を浄め、地獄などの苦しみを回避することができるのです。

さらに光明真言をお唱えし、生前に罪をなくし、功德を積むことによって、死後に大日如來の密嚴浄土、阿弥陀如來の極樂浄土に往生できると説かれます。また、生前に自分で光明真言をお唱えできなくても、遺された者が代わって、故人のために光明真言をお唱えすれば、同じく極樂往生ができることも説かれ

◎光明真言と土砂加持

また光明真言をお唱えし、加持することに

ています。
もし死者のために、この真言を一遍誦せば、必ず無量寿如来（阿弥陀如来）、死者のために手を授けて極楽浄土に引導したもう。（『毘盧遮那仏説金剛頂經光明真言儀軌』の文）
このようなお経の言葉にもとづき、極楽往生を果たすための手立てとして、平安時代の末期以降、光明真言が盛んに信仰されました。源信（九四二—一〇一七）の『往生要集』は、極楽往生に関する要文を集めたものとして有名ですが、本書でも、往生極楽の業として光明真言の名を挙げています。



「光明真言加持土砂」これまで、東日本大震災で被害に遭われた方の御霊の供養のため、多くの土砂が加持され、被災地に散じられました。

よって、さまざまなものに不可思議な力を込めることが可能です。その代表例としては、土砂があります（加持土砂）。お経では、土砂を手にとり、光明真言一〇八遍をお唱えして加持し、故人の亡き骸の上に散ずると、極楽往生できると説かれています。これを儀式化したものが「光明真言会」「光明真言土砂加持大法会」などと呼ばれる法要です。
総本山智積院では、毎年八月三十一日に、山内の僧侶が総出仕して、永代・納骨・日月牌総供養法要（百僧供養）である「光明真言会」が勤修されます。大勢の僧侶が金堂の内陣を読経しながら匝り、節つきの光明真言をお唱えし、力を結集して土砂を加持するという大変壮麗な法要です（詳しくはP・16・17「総本山の便りをお知らせします」をご参照ください）。

仏事がわかるリーフレット

Vol.5「光明真言」 Vol.6「お戒名ってなに？」のご案内

光明真言の功德を知っていただくとともに、光明真言を実際にお唱えするために作られた檀信徒向けリーフレットが発行されます。あわせてvol.6「お戒名ってなに？」も発行されますので一緒にいかがでしょうか。なお、今回ご紹介いたしました本宗発行の出版物は、真言宗智山派宗務出張所出版係にお問い合わせください。※お問い合わせ先は p.23 にございます





京都東山 総本山智積院

東山の一の庭園 智積院の庭園
ちよと静寂な空間に、自然の
美しさを堪能できる。

智積院は、京都府京都市東山区東大路七条下ル東瓦町九六四にあり、真言宗智山派の総本山です。
智積院は、平安時代中期に創建され、以来、多くの僧侶が修行の場として活躍してきました。
智積院の庭園は、東山の一の庭園として知られ、その美しさを堪能することができます。
智積院の庭園は、四季を通じて異なる景色を楽しむことができます。
智積院の庭園は、静寂な空間に、自然の美しさを堪能することができます。

真言宗智山派 総本山智積院内
宿坊 智積院会館
TEL (075) 541-5363
http://www.chisan.or.jp/sanpai/kaikan/

京都へお越しの際には、宿坊智積院会館をご利用ください。朝、静寂に包まれた名勝庭園があなたをお待ちしております。そして、宿坊ならではの魅力をぜひ体験してください。

宿坊智積院会館

<http://www.chisan.or.jp/sanpai/kaikan/>

【ご宿泊料金】●6,670円（朝食付き・坊入り灯明料・税込）

●ご夕食は1,620円より別途承ります。

（ご予約・お問い合わせ）

TEL:075-541-5363 mail:kaikan@chisan-ha.org



総本山智積院
ホームページ

・JR京都駅よりバス約10分
・京阪七条駅より徒歩約10分

智積院会館
宿泊料金 6,670円
（朝食・灯明料・税込）
ご予約・お問い合わせ
TEL 075 541 5363

京都
総本山智積院
〒605-0951 京都市東山区東大路
七条下ル東瓦町九六四
TEL 075 541 5361
FAX 075 541 5364
写経のつどい
毎月21日 13時より
於 金堂
納経料 千円

東京

総本山智積院別院 真福寺
〒105-0002 東京都港区愛宕一三三八
TEL 03 3443 1108
FAX 03 3443 1102
あたごやくし
愛宕薬師ご縁日
・大護摩供法要 12時より
・写経会（納経料千円）14時より
7月8日（金）
8月8日（月）
※6月8日（水）は施餓鬼会（15時より）のため、ご縁日はお休みです

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より
於 本堂（木戸銭千五百円）
6月16日 談志一門会
7月21日 三遊亭
8月18日 談志一門会

真福寺阿字観会

昼15時・夜19時より

於 本堂（無料・要事前申込）
6月28日（火）
7月26日（火）
8月23日（火）

愛宕薬師フォーラム（無料）
6月27日（月） 14時より

「密教と吉田」

天台寺門宗金翅鳥院住職 羽田守快先生

総本山智積院HP <http://www.chisan.or.jp>